

# 2022年度の活動報告

中期ASV経営 2030ロードマップで掲げる2つのアウトカムの実現に向けた取り組みと、それを支える事業基盤の強化について、2022年度の進捗を報告します。

## アミノサイエンス®で 人・社会・地球のWell-beingに貢献する

### 2030年 味の素グループのアウトカム

10億人の健康寿命を延伸

▶ P027

環境負荷を50%削減

▶ P044

### 事業基盤の強化

社会

▶ P087

ガバナンス

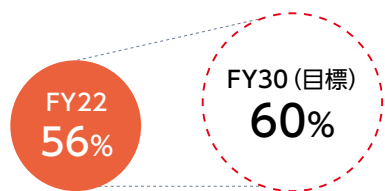
▶ P119

# 主要な取り組みと進捗

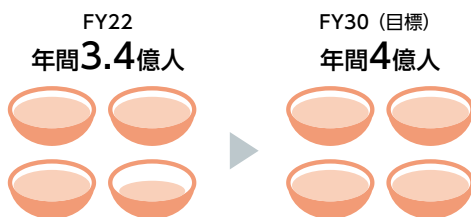
## 栄養コミットメント

私たちは、2030年までに、生活者との接点を現在の7億人から増やすと共に、「妥協なき栄養」のアプローチにより以下の取り組みを進め、おいしさに加え栄養の観点で顧客価値を高めた製品・情報を提供することで、10億人の健康寿命の延伸に貢献します。

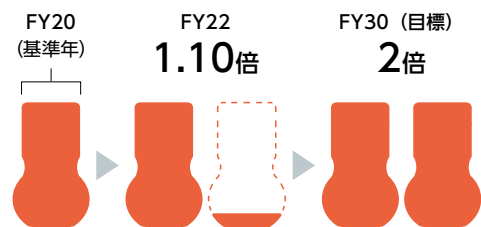
### 栄養価値を高めた製品\*の割合



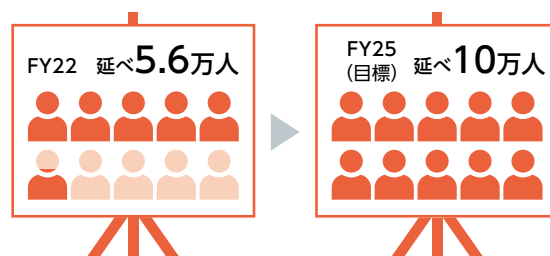
### 栄養価値を高めた製品のうち、「おいしい減塩」「たんぱく質摂取」に役立つ製品の提供



### アミノ酸の生理機能や栄養機能を活用した製品の利用機会



### 従業員向けの栄養教育

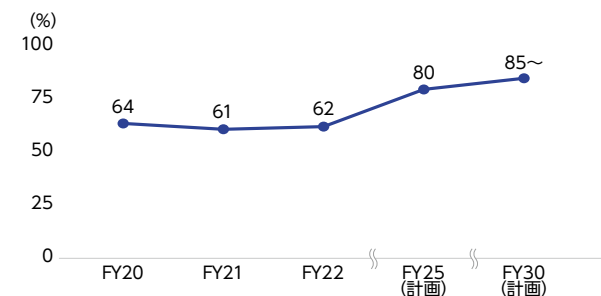


\* 国際公衆衛生の観点から重要な栄養成分の摂取の改善・強化に寄与する、味の素グループの基準を満たす製品

▶ P029

## 従業員エンゲージメントスコア (ASVの自分ごと化)

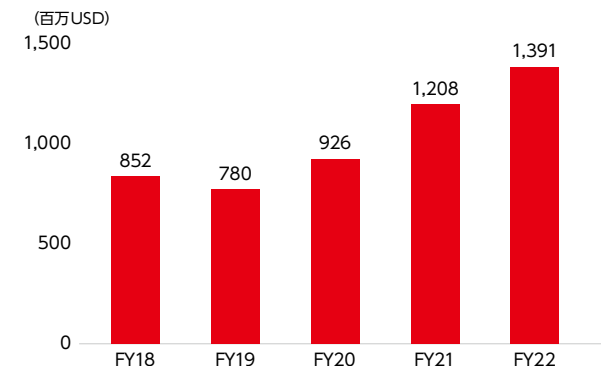
- 「ASV指標」の理解を深め志への共感を醸成し、挑戦できる風土を高めます。
- 測定方法を、「ASV自分ごと化」の1設問から、より実態を把握できる「ASV実現プロセス」の設問項目の平均値へと2022年度スコアから変更します。



▶ P112

## コーポレートブランド価値

- 技術資産と顧客資産を人財でつなぎ、イノベーションの共創を図ります。
- コーポレートブランド価値はインターブランド社調べの「Best Japan Brands」公表数値です。

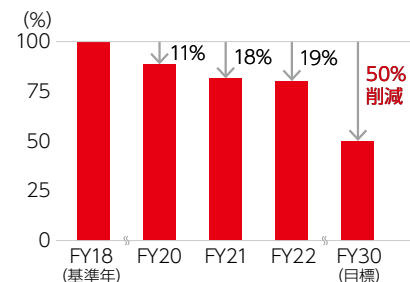


## 気候変動対応

- 温室効果ガス排出量は、2018年度比で、2030年度にスコープ1、2で50%、スコープ3（カテゴリ11除く）で24%削減を目標としています。また、2050年度ネットゼロを目指します。
- 水使用量対生産量原単位は、2005年度比で、2030年度に80%削減を目標としています。

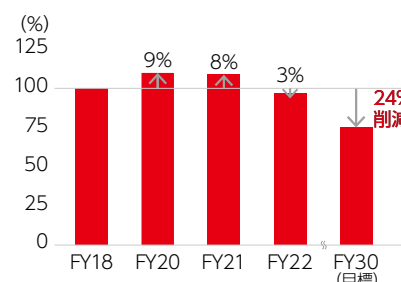
▶ P052  
▶ P083

### 温室効果ガス排出量削減率 (対2018年度スコープ1、2総量)<sup>※1</sup>

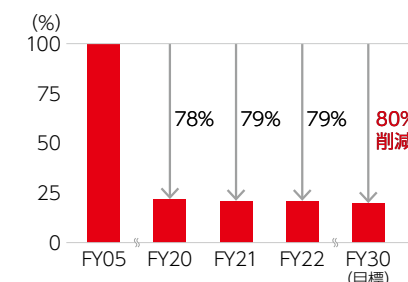


※1 SBTi目標に対する実績

### スコープ3（カテゴリ11除く）の 生産量1トンあたりのGHG排出量原単位<sup>※1</sup> 削減率（対2018年度）



### 水使用量対生産量原単位削減率 (対2005年度)

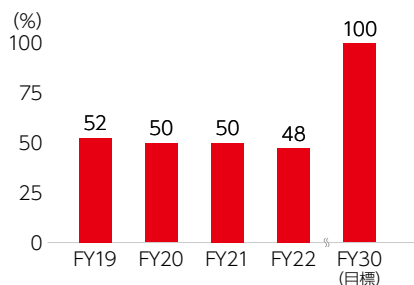


## 資源循環型社会の実現

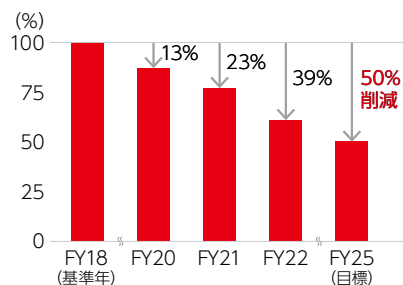
- プラスチック廃棄物は、2030年度にゼロ化を目指します。
- 原料の受け入れからお客様納品までで発生するフードロスを2025年度までに2018年度比で半減する目標を掲げています。
- 原材料を限りなく有効に使うことでゴミ等の廃棄物を削減し、資源化率99%以上を維持します。

▶ P063  
▶ P074

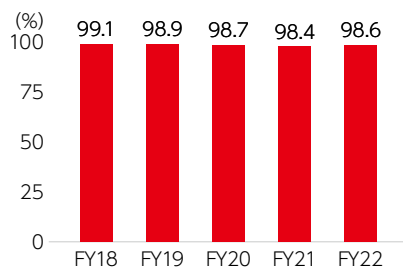
### リサイクル可能なプラスチック<sup>※2</sup>比率



### フードロス削減率 (発生量対生産量原単位)<sup>※3</sup> (対2018年度)



### 資源化率



※2 技術的にリサイクル可能なプラスチック。2019年に総量調査を実施、2020年以降のリサイクル可能比率は、国内主要事業部のみ更新

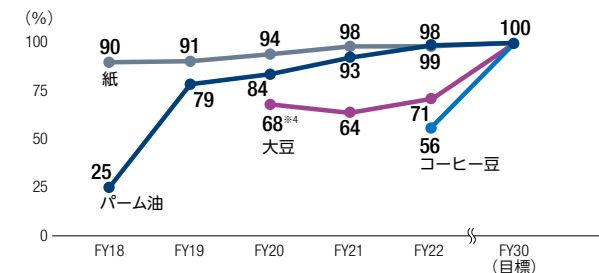
※3 原材料受け入れからお客様納品まで

## サステナブル調達の実現

- 重点原材料の持続可能な調達比率を、2030年度までに100%とすることを目標としています。

▶ P079

### 持続可能な調達比率



※4 国内事業向け調達分

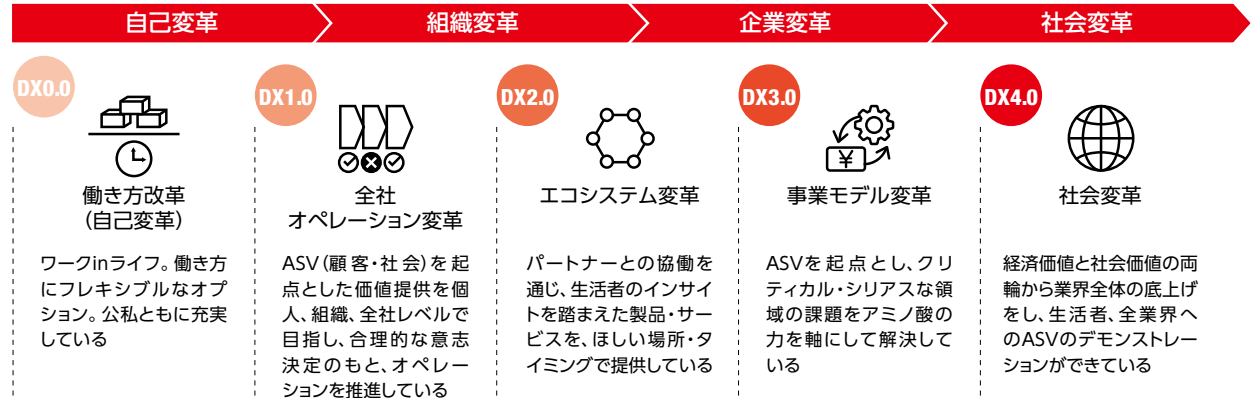
## 味の素グループの志（パーパス）の実現に向けた変革、およびサステナビリティの取り組みを支えるDX

広義のデジタル・トランスフォーメーション（DX）とは「社会のデジタル変容」を意味するものと捉えています。デジタル技術の進歩/浸透により急速に変容する社会において、当社グループでは「アミノサイエンス®で人・社会・地球のWell-beingに貢献する」を志（パーパス）として、事業を通じて社会価値と経済価値を共創するASV経営を進化させ、志（パーパス）の実現に向けた変革を加速する手段としてDXを推進しています。またサステナビリティの取り組みを推進するためにもDXは重要な役割を果たしています。

## DX ⇒ dX デジタルを活用した企業変革 Digital TRANSFORMATION

### DX推進における変革ステージと取り組み

DXの推進にあたっては、「DX(n.0)モデル」を採用しており、「DX1.0：全社オペレーション変革」「DX2.0：エコシステム変革」「DX3.0：事業モデル変革」「DX4.0：社会変革」というレイヤー別のステージを設定し、それぞれのレイヤーを連動させながら企業文化を進化させ、食と健康の分野において社会変革をリードする存在になるべく、顧客起点/全体最適/全員参加でDXを推進しています。



おいしい減塩「Smart Salt® (スマ塩®)」プロジェクトでは、おいしさを損なうことなく減塩できる、おいしい減塩レシピを開発し、オウンドメディアを通じて生活者の減塩への関心の高さに合わせたデジタルコミュニケーションを実施し、国内で蓄積したノウハウを海外グループ会社にも展開しました。この取り組みの結果、減塩製品の需要が伸びると共に減塩実践者が増加し、DX4.0（社会変革）に向けて一歩進めることができた

と捉えています。「アミノインデックス®」における血中アミノ酸の分析を通じた認知機能低下リスクの評価や、たんぱく質等の多様な物質を生産する菌株を、数十万を超える候補菌株の中から、短期間で選別できる手法（ドロップレットスクリーニング技術）にもデジタル技術が生かされています。

▶ P032  
▶ P042  
▶ 味の素（株）、東京工業大学との共同研究でたんぱく質の高効率生産に向けた微生物のスクリーニング法を開発

### 味の素グループのDXに対する評価

単に優れた情報システムの導入やデータの利活用にとどまらず、デジタル技術を前提としたビジネスモデルそのものの変革及び経営の変革に果敢にチャレンジし続けていることが評価され、「デジタルトランスフォーメーション銘柄(DX銘柄)※2023」に2年連続で選定されました。

※東京証券取引所に上場している企業の中から、企業価値の向上につながるDXを推進するための仕組みを社内に構築し、優れたデジタル活用の実績が表れている企業を、経済産業省、(株)東京証券取引所、独立行政法人情報処理推進機構が共同で選定するもの

▶ ASVレポート2023 (統合報告書) P115